

パージェタとトラスツズマブの治療をお受けになる方へ



パージェタとトラスツズマブは、腫瘍化した細胞の表面にある、HER2という目印のあるタンパク質にくっつくように作られた薬です。腫瘍を小さくしたり、広がるのを抑えたり、腫瘍による症状を軽くしたりします。


HER2という目印があるものにくっつくので、従来の薬と比べると、正常な細胞への影響は少ないと考えられています。点滴時のアレルギー様症状などの副作用が起こることがあります。

◎通常スケジュール

薬の名前	1日目	2～21日
パージェタ (成分名;ペルツズマブ)		お休み
トラスツズマブ (成分名;トラスツズマブ)		お休み

※上の表の21日を1回の治療として繰り返し行います。
症状や経過に合わせてお休み期間は変わります。

一日のスケジュール

	点滴時間	薬の名前	薬の働き
	15分	生理食塩水50ml 制吐剤	制吐剤 アロキシ、デキサート、グラニセロンなどを使用
	初回60分 2回目から 30分	生理食塩水250ml パージェタ	パージェタ；腫瘍の細胞分裂を抑える。
	初回；90分 2回目から 45分	生理食塩水250ml トラスツズマブ	トラスツズマブ；腫瘍の細胞分裂を抑える。
	10分	生理食塩水50ml	生理食塩水； 点滴チューブの洗浄および状態の確認

◎起こりやすい副作用について

●下痢

1日3回以上の排便回数の増加や水様便が出る場合があります。
症状が続く場合は、脱水症状を防ぐため水分補給を行ってください。
症状に合わせて下痢止めを使うことがあります。

●トラスツズマブによる心毒性

心臓に対する副作用があり、心臓がドキドキしたり、息苦しくなったり、むくみが出る場合があります。心臓がドキドキしたり、息苦しくなったりしたときは、医療スタッフに連絡しましょう。心臓機能の低下(100人に2~4人くらいといわれています)

●インフュージョンリアクション

発熱、悪寒、吐き気、頭痛、疼痛、痒み、発疹、咳、血圧上昇、気分不快が起こる場合があります。ほとんどの場合は点滴をしている時間帯におこりますので点滴中に気分不快等あれば看護師に相談しましょう。特に初回の点滴時に頻度が多く、発生した場合には点滴速度を遅くしたりして対処します。



これら以外の副作用があらわれる場合もありますので、気になる症状があらわれた際には必ず医師、薬剤師または看護師にご相談ください。